

伝えたい ふるさと東 1

東宮神社口碑 (『勢多郡東村誌』)

講師 藤井 実さん(東町花輪)

沢入東宮神社口碑(言い伝え)を口語表現にして、注釈を加えてみました。

もともと、東宮神社は、第四九代光仁天皇の御弟君を祀ったところだ。

※光仁天皇は、奈良時代末期の宝亀元年(七七〇)から天応元年(七八一)に在位した第四十九代天皇。
※光仁天皇は、天智天皇(中大兄皇子)の孫で、七九四年平安京に都を移した桓武天皇の父である。

の乱」であろう。

この乱の時、光仁天皇の御弟君は、親王の命により、蝦夷征討軍の都督(※司令官)として軍を率い都を出陣された。

※親王は、天皇の兄弟及び皇子のこと。

※この「親王」の名も不明である。

※上野国が親王任国になる以前であり、上野守が存在、当時の上野守は安倍家麻呂

その折、本村で軍を止め、本陣とした所が東宮神社だと云う

※「本陣とした所」は、「かつて善養寺とい

い、現在の東宮神社神輿を入れ置く所で権現堂という建物のある地」と「東宮神社口碑」(『東村誌』)文中に記されている。

敵軍の来襲を警戒して、要所に兵を配置し露営(陣を張ら)させた。

その場所が、陣場手、見上ヶ坂、旗ノ手(今は畑の字を用いる)、馬場手、戦畑等であり、その古蹟が残っている。

※陣場手(陣場平か)：沢入

黒坂石バンガロー村付近

※見上ヶ坂(見上坂か)

…黒坂石テント村か

ら千数ヶ先の地付近。

※旗ノ手(今ハ畑ノ字ヲ用

ユ(畑ノ平か)：…バン

ガロー村から五、六百

ヶ先の地付近。

※馬場手：・場所不明。

※戦畑（たたかいばた）

国道一二二線「沢入」

の信号から数百以足

尾方面に向かった石

材工場付近の地

※この露营地名を地図

上に置いてみると、

陣場平・見上坂・畑

の平は黒坂石川沿い

の小字名にあてはま
る。

※黒坂石川を遡り「黒

坂石バンガロー村」の先

を右折し椀名條線を

進むと「根本山」に至

る林道がある。

※根本山は、古来靈山

修行の山であり、この

黒坂石川沿い道筋は

奈良時代から人々の往

来として利用されてい

たのだろう。

※この道筋は険しいが、

陸奥国から上野国の

東山道に入る脇道の

一つであつたのかも知

れない。

※東山道は、飛鳥・奈良

時代から平安時代に

かけ、都と奥州出羽

を結ぶ八百余kmに及

ぶ街道。

ことたたかいばた

殊に戦畑は、蝦夷軍の

斥候と御弟君の朝廷軍が

戦い、蝦夷軍を撃退した所

と云う。

こうして、蝦夷軍が渡良

瀬川の河岸に沿つて逃げる

のを掃討しながら、渡良瀬

川上流へと軍を進めた。

通称坂東太郎と呼ばれ

ている巨石附近に軍を進め

た時、御弟君は急に病にた

おれ、ついには薨去された。

村人たちは驚き悲しみ、

ご遺体を本陣の置かれたこ

の地に埋葬しようとしたが人

手が足らず、隣里の八沢村

の人々に助けを求めた。

八沢村の人たちは涙を

流し泣きながらやつて来て、

村人といつしよになつて御弟

君を埋葬し、村の鎮守様と

して崇め祭つた。

この地が、都から東にあ

たることから 東宮神（神

社）と呼び敬つたという。

※上野一ノ宮貫前神社（五

三四年創建）の東にあた

ることから「東宮神社」と

名付けたともいわれる。

「口碑」の頃は、奈良時代

後半。都は平城京。天皇を

中心とする律令制の最盛

期を迎えていた。

東国では八世紀前半の

神亀元年（七二四）、蝦夷支

配の拠点多賀城（宮城県

多賀城市）が創建された。

八世紀中頃から九世紀

になると、朝廷は東北地方

を律令制による支配を強

化し官軍を蝦夷に派遣。

それとともに両者の戦い

は三十八年間も続いた。

「口碑」はその頃の言い伝え。

動員されたのは、東山道

が通る上野・下野・武蔵の国

々の農民であつたのだろう。

また、蝦夷東北へと進む

官軍の一兵として東の農民

もかり出されたのであろう。

弘仁二年（八一二）の戦

いに征夷大將軍として登場

したのが「坂上田村麻呂

（通称金太郎さん）」。